

(国語科)

子ども一人一人が生き生きと話し合う力の育成
～国語科の「話すこと・聞くこと」における指導を通して～

大阪市立宮原小学校

1. 研究主題設定の理由

本校では『一人一人の子どものよさを見つめ、可能性を引き出す教育の推進』を学校の教育目標に掲げ、心身ともに健全な子どもの育成を目指して日々の教育活動を進めている。

令和3年度はコロナ禍で活動に制限があり、話し合い活動自体が難しい状況にあった。そこで、コロナ禍においても自分の言葉で生き生きと話し合う活動の充実を図ることを研究主題とし、研究をスタートさせた。児童の現状としては、大阪市小学校学力経年調査の児童質問紙における「自分と違う考えの人と話しているとき、その人がどうしてそのように考えているかをわかろうとしていますか。」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合が、第3学年以外の学年において大阪市の平均を下回っていた。また、「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか。」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合が、全ての学年において大阪市の平均を下回っていた。そこで、自分と違う考えを持つ人の話を詳しく聞いたり、自分の考えとの違いについて話し合ったりすることで、自分の考えが広がったり深まったりしたという実感を味わわせる必要があると考え研究を進めてきた。

2. 研究の趣旨

本校では、国語科に限らずどの教科においても、話し合い活動が単なる意見交流で終わってしまう場面が多くみられた。また指導者側も若手教員が増え、指導経験不足という課題もあった。そこで、国語科の「話すこと・聞くこと」に焦点を当て、最初は思考ツールを用いた話し合い活動を通して、児童が自分の考えや意見をもって話し合い活動に積極的に参加することをねらいとした。通年の取り組みとして、トークトレーニングを朝の会や学級活動、国語科の時間などに取り入れ、話すことへの抵抗感を減らすだけでなく、聞く力の育成にもつなげようと考えた。また、聞く場が増えることで、友だちの話を「目を見て」「最後まで」「うなずきながら」聞く等、聞く態度も養われると考えた。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 発達段階に応じた課題設定の工夫

- 学年に応じ、系統立てた指導を行う。
- 指導者は、どういった力を児童に身に付けさせる必要があるのかを意識する。
- どのような課題設定が各学年において適切なのかを検討し、授業研究を行う。
- 学習課題を児童一人一人が自分事として捉え、主体的に取り組むための工夫を行う。

視点② 自分の考えを整理し、表現しやすくするワークシート(思考ツール)の工夫

- 一人一人が自分の考えを持ち、話し合い活動に主体的に参加できるようなワークシート(思考ツール)を工夫する。

○ 6つの思考スキルの活用

- ・比較する(ベン図)
- ・分類する(Xチャート・Yチャート)
- ・多面的に見る(くま手チャート・フィッシュボーン)
- ・関連づける(コンセプトマップ・イメージマップ)
- ・構造化する(「なぜ」「なに」シート・ピラミッドチャート)
- ・評価する(PMI分析表)

視点③ 指導と評価の一体化

- 指導者が指導する際の観点と、児童を評価する際の観点を連動させる。
- 指導者が自らの指導のねらいに応じ、授業の中での児童の学びを振り返る。
- 学習や指導の改善に生かしていく。
- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A・B・C)を行う。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 全学年の発達段階に応じた話合いの目標や、取り組みの違い、相互のつながりを知ることができた。
- それぞれの学年で身に付けるべき力がはっきりしたことで、学級でどんな学習を進めていけばよいか明確になった。
- 声の大きさを意識しながら人の前で話すことができるようになったり、友だちの話を最後まで聞こうとしたりする児童が増えた。
- 全ての児童が「おおむね満足できる」状況(B)となるように指導を考えることができた。また、「努力を要する」状況(C)の児童に対して、具体的な手立てを考えることができた。

(2) 今後の課題

- 児童の主体性につながる「誰のために」「何のために」といった目的を意識した話合い活動を行っていく。
- 国語科の「話すこと・聞くこと」の単元だけでなく、他の単元・教科においても「指導と評価の一体化」を意識しながら授業づくりに取り組んでいく。
- 相手に自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりするといった、話し合う力の向上につながる学習課題の設定を意識していく。
- 話合い活動に生き生きと取り組む児童を一人でも増やすため、お互いの考えを認め合える雰囲気づくりを工夫していく。